

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第18号(20101112)

発行 竹田幸男



市民文化祭出品の感謝状を手に

11月例会の開催

11月例会は11月12日(金)に開催、先に開催された寝屋川市民文化祭における映像作品発表会の状況報告や映像協会との平野郷撮影会の打ち合わせの状況、忘年会の詳細などが議題に上がりました。(写真左)

市民文化祭に4会員が出品

今年の寝屋川市民文化祭は11月3日(水・祝)から6日(土)にわたって開催され、そのうち11月3日には市民映像作品発表会が行われました。今年は全16作品中、新井、竹下、谷、竹田(映像協会として出品)の4人の作品が出品され注目を集めました。

例会の窓

平成22年11月例会

日 時 平成22年11月12日

13:30~16:00

場 所 寝屋川市民活動センター(市民会館4F)

こども室

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹下 竹田 谷 田淵(9名)

欠席者 竹嶋 田口 (50音順 敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項。

(1) 寝屋川市民文化祭・映像作品発表会の件

- ・参加者多数で盛況であった。
- ・当同好会の出席者、新井、竹下、谷、竹田さん(出品者)
石田、竹嶋、梶本、小笠原さん(鑑賞者)
- ・出品作品
新井正直 はす酒を楽しむ
竹下 功 イエローストーン国立公園
谷 弘子 オーストリア アッヘン湖 ミニSLの旅
竹田幸男 忠烈祠 衛兵の交代(映像協会からの出品)
- ・作品出品者への「感謝状」の贈呈と写真撮影を行った。

(2) 平野郷撮影会の件

- ・第4日曜日は映像協会の例会の日なのでそれ以外の日を基本として実施。
- ・映像資料館・刀博物館・その他いくつかの博物館・全興寺・大念仏寺・杭全神社・長寶寺などをいくつかのコースに分けて実施すること、博物館は多人数での撮影は無理なので定員を決めること、などを検討する。
- ・実施時期を年明けとすると、12月に素案提示、1月決定の段取りで準備が必要。
- ・昼食は雰囲気、料金などを考えて「がんこ寿司」に決定済み。
- ・映像協会の上辻さんと、小笠原で早急に打ち合わせをする。

(3) 忘年会の件

- ・12月10日(金)例会・年次総会を30分早め、13時～15時30分とし、
- ・16時から「がんこ寿司」で開催。昼メニューで会費は3,500円を予定。
- ・「がんこ寿司」は予約済み、最終確認要(田淵さん)
- ・参加確認済み(10人)、田口さんの確認要(竹田)

(4) 平成23年、当同好会作品発表会の件

- ・11月26日(案)、忘年会には少し早いですが、終了後、実施することで仮決定。
- ・今から作品テーマを決め、自分なりに満足のいく作品作りに取り組もう。

(5) 次回のお他団体との交流について

- ・今年は私どもの主催行事に参加いただいたので、次回は私どもが出掛けたい。

- ・詳細は決まった時点で報告する。

(6) ひなまつり撮影会作品の件。

- ・諸行事で多忙を極め、作品作りが遅れている。
- ・お世話いただいた先の方が、作品を期待されていることもあり鋭意取り組む。

(7) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件

- ・次回担当 天野さん。次回例会の一週間前を目処に。

2. 作品発表

「パッチャーコウフェル」 谷さん 6分57秒

- ・ナレーションの音量が小さい。その部分のBGMの音量を下げると良い。
- ・ナレーションをもう少し多くすると素晴らしくなる。
- ・三脚もしくは一脚を使用し、画面を安定させると良い。
- ・作品には、最初に5秒～10秒程度の黒画面を付けるようにしよう。(最後にも)

「寝屋川市文化連盟 会員親睦研修会」 竹田さん 9分58秒。

- ・寝屋川市文化連盟が会員対象に毎年行うバス旅行の行事記録作品。過半の映像を三脚使用で撮したので映像が安定している。ナレーションは「あかり」さん。
- ・今月号の「NVC Monthly」の「AVCメモ」にある、4対3、16対9の映像比率を正しく映写できるかの「実験DVD」も兼ねている。

家のDVDレコーダーで再生し4対3のテレビで映写したときは左右がカットされて縦横比は正しく映写されたとの事だが、会場のテレビと持参のDVDプレーヤとの相性が悪く、縦長になり映像比率が正しく映写できなかった。この問題の解決は難しい。(编者注：同じ4対3のテレビでも水平走査の4対3画面相当分を画面に出すか、全部を画面に出すかは発売時期によって異なるように思います。専門家に聞いてみたいと思います。)

3. 会員の当面する問題点の質疑応答

- ・静止画を取り込み作業をしようとする、重くなり処理に時間を要する。
- ・画素数を映像に影響しない程度に下げると良い。
- ・静止画のズーム・パンはどのようにするのか？
- ・ソフトさえあれば簡単に作品作りができる。ソフトは数多く市販されている。
- ・PCに取り込んだ静止画・動画が、作業をしているうちに複数作成されたり、消えたりする不都合が生じる。
- ・保存する場所を指定し、保存フォルダーに名前を付け、保存場所を一定にする。

る。

- ・保存場所をはっきり自覚する目的で、「名前を付けて保存」し、「上書き」しない癖をつける。不要が明確になって削除する。

4 . 次回例会

- ・12月10日(金) 13:00~ 於:市民活動センター こども部屋。
- ・年次総会を合せて実施。終了後寝屋川市駅前「がんこ」へ移動して忘年会を行う。
- ・カメラ担当:新井さん。



はじめてのパソコンとの出会いから、今日まで

天野 忠一

パソコンの技術、そしてソフトの進歩は目をみはるものがあります。つい先月やっとの思いでパソコンを購入し喜んでいたら、もう一歩も二歩も進化したものが発表されています。ソフトも同様に新規またバージョンアップされたものが、次から次へと発売されていますが、一体いつが買い時なのか判断に悩むことがあります。特にここ数年はそのように思います。しかし、そのようなことを考えていますと、パソコンそしてソフトを使って今この時を楽しむということを知らずして、一生を終えてしまうかも知れませんね。

ここで、26年間に私が出合ったパソコンの思い出等を、少し振り返らせていただきたいと思います。

1984年10月 初めてパソコンが手元に

ところで、私とパソコンとの付き合いは、案外古い付き合いになるかも知れません。最初に出合った(購入)のは1984年10月ですから、26年前ということになります。それ以来の付き合いですがパソコン知識は、甚だ貧弱なものであり、未だに使いこなさに苦労しているのが現状です。

購入したパソコンはNECのPC100という機種です。本体(448,000) ディスプレイ(59,800) プリンター(298,000) 計805,800円もしました。

少しは安く買えましたが、ずいぶん高い買い物でした。当時出向していましたので出向先の方から、『これからはパソコンで仕事をする時代に入る。データを電卓で繰り返し計算するのではなく、一気にパソコンに計算させたらどうか、また文章も簡単に作成できる』と、



PC100とディスプレイ



ドットインパクトプリンター
PC-PR201

この機種を愛用している本人のことばで説得力もあり、作成した資料を目の前で見せられた時は、少なからずショックを受けるとともに、パソコンの魅力が強烈に伝わってきました。しかし、高い買い物であり購入には凄く悩みましたが、将来のことを考え『よし！』と早速購入することにしました。

今とは違い、数機種の中から選ぶことになったわけですが、このパソコンは当時としては極めてパフォーマンスが高く、どこにも類例を見ない驚異的16ビットパソコンといわれていましたので、手元に届いた時は凄く嬉しかったことを覚えています。今少しPCを紹介しますと、ハードディスクはありません。記録媒体は、5吋のフロッピーディスクです。(最近まで使っていたなじみの3.5吋のフロッピーディスクではなく、ペラペラの感じで使用中に壊れないかと心配したものです)

アプリケーションソフトは JS-WORD (ワープロ) マルチプラン(表計算) ディスプレイは白黒で縦置き・横置き可能なユニークなものでした。プリンターはドットインパクトプリンターで、用紙は縦・横にミシン目が入った連続用紙を使用していました。印刷時の音は非常に大きく(ドッドドッ)夜にプリントすることに気兼ねをする位でしたが、このプリンターの音を聞きますと、今まさに仕事をしているという気になり、私の好きな音のひとつでした。(笑いですね)

インターネット、メールというものもなく、他にソフトも販売されていたと思いますが、表計算と文章作成のみに使用していました。今となれば懐かしいパソコンです。

- MS-DOS / 8086 7MHz / メモリー 128KB / HDD なし / 5.25吋FD (360KB) 2基 / 712×512ドット / JS-WORD・マルチプラン搭載 / マウス標準装備

1987年5月 かわいいPCに魅せられて

パソコンが少し使えるようになった頃、私の転勤とともにPC100も名古屋から九州へついてくることになりましたが、そこでまたまた新たなパソコンに出会うことになりました。『PC100で身につけた表計算他の技術を、新職場で発揮できないか』と考えていたところ、事業計画策定という絶好の場が設定されました。

休日に出勤し、検討ということになりPC100で事前作成したデータを気分よく持ち込みました。すると現地の後輩の一人が、キャリングバッグに入れたパソコンとプリンターを持ち込んできたのです。それを見て『何、これ?』と、いえるほど大きな衝撃を受けた記憶が今でも残っています。洗練されたデザイン、そしてかわいさいっぱいパソコンで、カラー印刷もやってのけるスグレモノのMacです。



Macintosh Plus

後輩は慣れたもので、一瞬の間に必要なデータを作成し、カラー印刷をしてしまったのです。それを見てからというものの『寝ても覚めても、欲しい！欲しい！』がしばらく頭から離れず、とうとう購入することになってしまいました。

1987年5月のことです。その機種はMacintosh Plusです。これも結構高価でしたので、プリンターは手持ちのものを使って楽しんでいました。このMacも記録媒体はFD（こんどは3.5吋）だけでしたので、数ヶ月後に外付けの40MB HDDも購入しました。価格は 円（忘れましたが100,000以上だった？）。

CD 1枚が700MBですから約1/17ぐらいの容量です。今思うと何と高いHDDといった感じでしたね。表計算、文章作成もこのパソコンの力を借りましたが、後輩のように進まず『手元にMacがあれば同じようなことができる』と錯覚を起こしたことが大きな反省点でした。後輩が持っているソフトと、パソコンに対する知識レベルの差があまりにも違いすぎたということです。またこんなに高価なパソコンを、よくも衝動買いの買い方をしたものだ、と今原稿を書きながら当時の大胆な自分が怖くなってきました。しばらくはPC-100とMacの両機種で、作業の効率化？をはかった仕事ができたと感じています。

- MAC-OS / MC68000 8MHz / メモリー 1MB / HDD なし 外付け 40MB増設 / 3.5吋FD (800KB) / 9吋白黒 / 漢字TALK (?) ・ VisiCalc

この2機種は、当時を代表するパソコンであったと思いますし、思い出多いパソコンでした。

残念ながら、Win 95搭載パソコンの購入と同時に処分をしてしまいました。記念に置いておけばよかったと今頃になって後悔しているところです。

1996年10月 Win 95 初のノートパソコン購入

長期にわたりPC100, Macの両パソコンを使用してきましたが、1995年にWindows 95搭載パソコンが各メーカーから発売され、店頭にはずいぶん機種が並ぶようになり、ソフトも充実して一気にパソコン環境がよくなったように思いました。大容量のHDDが内蔵され、3.5吋FD ドライブも容量アップの1.4MBを搭載、そしてCD-ROMも、さらにインターネット、電子メールもできる。しかもディスプレイはカラー表示です。さらに据置きタイプがパソコンのかたちという認識でしたが、ノート型も発売され、世の中が大きく変化しそうな気配を感じました。



サテライトプロ 420

私もパソコンに慣れてきた頃でもあり、手持ちパソコンと比較しましたが、

圧倒的なWin 95 PCの優位性がわかり、数多く発売されている中でダイナブック サテライト プロ420という機種を選択しました。この時点で、わが家ではPC-100そしてMac Plusの時代が終わったこととなります。価格はこれまた驚くほど高く、『よくもまた、こんな高いものを買って』と言われそうな気がいたしますので、ここでは伏せておきたいと思います。

このパソコンは、ずいぶん業務で活躍してくれました。職場ではLANに接続し、インターネット、そしてメール、文書作成・表計算と、『パソコンの魅力』というものを存分に味わったように思います。当時はセキュリティもあまり厳しくありませんでしたので、重い3.4kgのこのパソコンは、自宅と会社をよく往復したものです。



今も現役
のDeskjet 880C

98年10月には、HPのカラープリンターも購入し、家庭でもフルに活躍するようになりました。

- Win95 / Pentium 100MHz / メモリー 8MHz / HDD 810MB / 11.3吋 / CD-ROM / 3.5吋 FD (1.4MB) / ワード95・エクセル95 搭載 / ACアダプター内蔵 / 質量 3.4kg (?)

1999年10月 ビデオ編集パソコンが！ インターネットが！



PCV-R71

DVカメラに大変興味を持っていましたが、まだ手元には持っていませんでした。一方この頃デジタル情報誌には、ビデオ関連機器、編集パソコン、関連ソフトの記事がずいぶん掲載されるようになり、特に私は『ビデオサロン』・『デジタルCAPA』という情報誌に大変影響を受けました。

その影響から、DVカメラ、ビデオ編集を今まで以上に意識することになり、『私がやりたかったことは、実はこれだ』という決定的なものを得ました。そこで早速99年4月にDVカメラを、そして10月には編集用パソコンを購入することにしました。SONYのPCV-R71です。このパソコンは、編集ソフトとして当時大変有名なアドビプレミア5.1を搭載しており、即編集可能というものでした。この時から、ビデオ編集がスタートしたことになります。周囲は、まだまだ『ビデオ編集って何？』という時代であり、ディスプレイに表示される複雑そうなタイムラインを見ながら、少し得意気になったこともありました。しかし、編集ソフトがバージョンアップされる度に費用が重なるとともに、教えを請う人が周囲に見当たらず、このソフトを使いこなすための解説書（これがまた高価）を何冊も買い込み覚えたことを思い出します。



56Kbps モデム

また、このパソコンは編集がメインでしたが、インターネットも経験しました。56Kbpsのモデムを接続して楽しみましたが、今のように常時接続ではなく接続しては切り、接続しては切りのインターネットでした。そして電話使用

中はインターネットに接続できないという不便さ、今考えると『そんな時代があったの?』と思うほど懐かしいインターネット接続でした。

- Win98SE / Pentium 3 600MHz / メモリー 128M / HDD 27G / 17吋モニター / CD-RW 書き込み / TVチューナ / 編集ソフト アドビプレミア5.1搭載

2000年11月 大画面、軽量ノートパソコンが欲しくて!



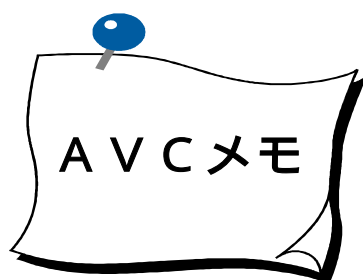
ノートPCとしてサテライトプロもずい分活躍してくれましたが、購入した4年前から比較しますと、パソコンの世界は著しく変化し性能が向上しています。OSもWin 95 98 98SEとかわっていますし、CPU/メモリー/HDDも大幅アップ、そしてUSB対応、DVD-ROMもサポートされるようになりました。

ノートにおいては大画面と軽量化したものが発売され、どれをとっても4年前のパソコンから見ますと非常に魅力ある商品に生まれかわって発売されていました。今回の機種はこれらの全てを満足するものではありませんが、パナソニックのLet's note CF-L1Eを購入することにしました。乗り換えた最大理由は、画面が大きくなる(11.3吋 13.3吋)そして軽くて持ち運びに便利(3.4kg 1.97kg)になったことです。

この差は数値以上にメリットを感じたように思います。私の現役時代に最も活躍してくれた思い出多いノートPCでした。

- Win98SE / セレロン 450MHz / メモリー 64M / HDD 8.1G / 13.3吋 / CD-ROM / office2000搭載 / 質量 1.97kg

- 以下次号に続く -



映像のプライバシーについて考える

竹田 幸男

海外の街角でビデオカメラを構えていると、向こうからまっすぐ歩いてきた人が、すっと横へそれることをよく経験してきました。カメラの邪魔になることを避けてくれているのだ、とはじめは思っていました。そのうち、これは「どこの馬の骨かわからんやつに顔を持ち帰られたくない」という気持ちなのだろうと納得しました。しかし中には手を振ったり、さらには大人なのに両手を振ったりして大げさにポーズする人もあり、人の性格なのか、人種的な差なのか、面食らうこともあります。

最近ではテレビ放送など、特にドキュメンタリー番組などでは、顔や車のナン

バー、看板、写った書類の氏名の部分などにモザイクがかかったものをよく見かけます。それだけプライバシーの問題が重く見られるようになってきたということでしょう。

ずっと前に遠方から来た人の接待で保津川下りに出かけたことがあります。急流の、とある岩の上から「ハイ、こっちを見て！」と声がかかりました。後で見本を見せて集合写真を売るカメラマンがいたのです。するとある男女2人が、とっさに何かで顔を隠しました。出来てきた写真を見るとくだんの2人は顔が見えず、誰かわかりませんでした。あの2人がなぜ顔を隠したか、その事情は説明せずともよくわかりでしょう。

たとえば私たちの会員の一人がボランティアで小学校の学校図書館の運営の改善についての映像を作ろうとしたところ、学校から生徒は写さないでくれ、といわれて計画は暗礁に乗り上げている、とのことで、これは父兄の反発を見越しての、少し過剰な反応であろうと考えられます。

ところで、私たちの作品の多くは、まだ、このような世情に対する配慮がされていないように思います。多くの人たちが写されたままの顔をさらしています。これは見る人が限られている、という事情から多少大目で見てもらえることなのでしょう。しかし、同じ作品がインターネットに乗り移ると、これは「全国放送」どころか「全世界放送」になります。気軽にDVDを人にあげたところが、その人がネットに流さないとは限りません。もちろん、アマチュアの作品であっても作者に無断でネットに流すことは著作権法違反ですが、これを突いても後の祭りです。

ブログ、というネットでの表現形式がはやっています。このブログを見ると、どこかへ行った経験、自分のしていること、自分の思っていることなど、ずいぶん詳細なことを書いているな、と思いますが、多くは匿名です。匿名だから、思い切ったことが書けるんだな、とは思いますが、これはいかんな、ということも時々あります。自分のことは匿名で伏せておきながら、中に写っている、たとえば同窓会の写真や動画、しかもそれが実名で出ていたりするので、同窓会の内容が実名で「全世界放送」されているのです。自分は名前を出さず、しかし友人たちは顔も実名も出す、というのは、いかにも片手落ちの感を免れませんね。

アマチュアといえども、これからは被写体のプライバシーを考えながら作品を作らなければならなくなるでしょう。どのような形で自己規制していけばよいか、作品の内容、発表場所、作品の提供先なども考えながら試行錯誤していかなければならないと思います。 (完)